

家庭菜園

葉ダイコン

チャレンジ



防虫ネットで虫害を回避

ダイコンの葉は、漬物、ごまあえ、炒め物として利用されます。間引きした葉も利用できますが、葉を食べることを目的に栽培をします。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地			春まき				夏まき			秋まき		
中間地 暖地		春まき					夏まき				秋まき	

栽培時期

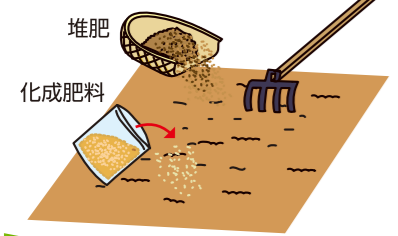
ダイコンの生育適温は20度くらいで、秋まき(9月)が最も作りやすい季節です。しかし、葉ダイコンは生育期間が短いので、冬の11~2月まきを除くと、いつでも種まきができ、1、2カ月で収穫となります。

品種

ダイコンの品種はたくさんありますが、葉の品質が良く、表面に毛が少なく、柔らかい品種が葉ダイコンに適しています。専用品種には「葉大臣」(サカタのタネ)、「ハトリくん」(タキイ種苗)、「美菜」(ヴィルモランみかど)などがありますが、青首ダイコンの各品種や地方品種の「方領」「亀戸」も葉ダイコンに使えます。

畑の準備

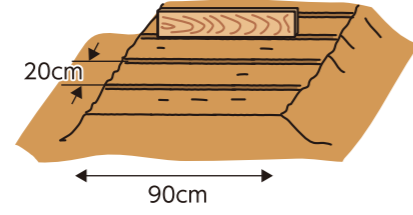
種まきの2週間前までに1平方m当たり苦土石灰200gをまき、よく耕し酸度を矯正しておきます。1週間前までに化成肥料(NPK各成分10%)100g程度と堆肥1kgを施し、土とよく混ぜておきます。



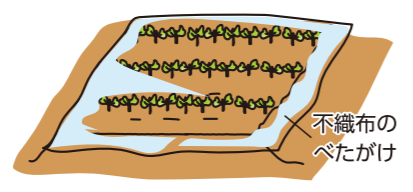
その後、幅90cmの栽培床を作ります。

種まき

栽培床の長辺方向と直角に、20cm間隔に約1cmの厚さの板を使って、土を押し込み溝を作ります。

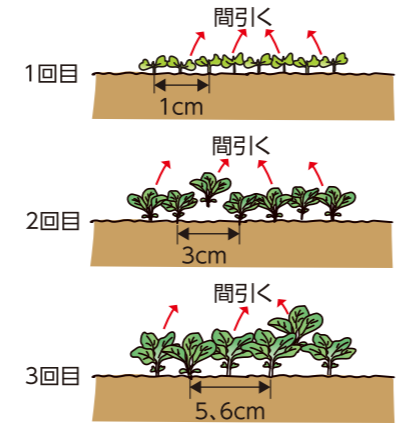


ここに1、2cm間隔に種をまき、種が隠れる程度に薄く土をかけます。発芽まで十分に灌水(かんすい)します。種まき後は、不織布のべたがけをして、幼苗を保護すると良いでしょう。



間引き

発芽後3回に分けて間引きます。1回目は本葉が開く頃、株間が1cm程度となるように成長の遅れた株、密になっている株を抜き取ります。2回目は本葉3枚の頃、株間を3cm程度にします。3回目に最終株間を5、6cmに間引きます。



灌水

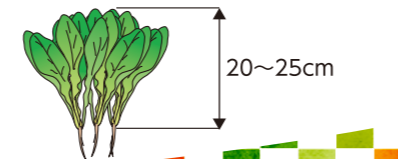
畑が極端に乾いていたら、水を株元にたっぷり与えましょう。

害虫防除

小さい葉の食害は後になって目立ってきますので、種まき後すぐに、不織布のべたがけ、または網目の細かい防虫ネットでトンネル状に被覆して害虫の侵入を防ぎます。農業では、アオムシ、コナガにはBT剤など(トアロー水和剤CTなど)で防除します。詳しくは、お近くの営農経済センターにお問い合わせください。

収穫

草丈が20~25cmになったら、根を付けて抜き取ります。



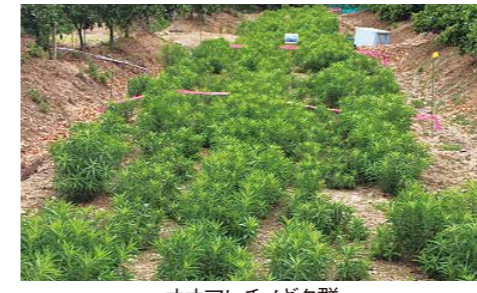
営農情報

トレンド

最新の農業情報や肥料・資材などの新商品、さまざまな「営農」に関わるトレンドを営農アドバイザーがご紹介



ミカンほ場の難防除雑草対策 (オオアレチノギク対策)



オオアレチノギク群



グリホサート系除草剤の枯れ残り



ロゼット状(除草適期)



7月のオオアレチノギク(2m近くまで伸びる事がある)

試験の結果、オオアレチノギクのグリホサート系非選択性除草剤(ラウンドアップ・タッチダウン・サンフーロンなど)に対する感受性が低下していました。オオアレチノギクは10~11月頃に発生し、ロゼット状で越冬します。越冬期間中は除草剤の効きが良いので、冬季除草の徹底が除草のポイントです。薬剤は低温でも安定した効果を発揮する「プリグロックス」を使います。同薬剤の使用にあたっては、ドリフト防止に

必ず飛散防止カバーを噴口に掛けてください。冬季除草は雑草がまだ小さく発生密度も低いので、薬剤の量も少なく済み、費用や労力の軽減につながります。春季は生き残った株の草丈が20~30cm位の時に、「バスタ液剤」を散布します。対策を徹底すれば種子の発生を防ぎ、効率よくオオアレチノギクを減らせます。オオアレチノギクは越年生の1年生雑草で、種子量が多く、秋に綿

状の種子が風に乗って広範囲に飛散するので、8月上旬までに枯らすか抜き取るなどして、根絶することが大切です。※プリグロックス、バスタ共に茎葉処理剤なので、霧なしノズルを使い薬液をたっぷり附着させてください。※プリグロックスは毒劇物のためご購入時に本人確認と印鑑が必要です。

除草剤を散布しても枯れない雑草があるとの相談が増えています。特にキク科イヌハコ属の植物「オオアレチノギク」について同様の相談が相次いでいます。雑草の薬剤感受性が低下していると考え、薬剤散布試験を行いました。